

平成 28 年度 第 2 回 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター評価委員会会議録

日 時 平成 28 年 8 月 10 日 (水) 午後 1 時 00 分から 3 時 30 分まで

場 所 東金市役所 3 階 第 1 委員会室

出席した委員

浅岡 厚	九十九里町議会議員
古元 重和	千葉県健康福祉部保健医療担当部長
鈴木 紀彰	国保直営総合病院君津中央病院名誉院長
佐野 勇一	株式会社ちばぎん総合研究所経営コンサル第一部長
中丸 悦子	東金市議会議員
樋口 幸一	公認会計士
星野 恵美子	公益社団法人千葉県看護協会会長 (敬称略、五十音順)

欠席した委員

古川 洋一郎	山武郡市医師会副会長
水田 宗子	学校法人城西大学理事長
山本 修一	千葉大学医学部附属病院長
横山 正博	千葉県病院局副病院局長 (敬称略、五十音順)

会議概要

1. 開会 (午後 1 時 00 分) 司会 鈴木医療担当部長
2. あいさつ 設立団体 志賀市長、大矢町長
地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター平澤理事長
3. 議事
第 1 号議案 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター
平成 27 事業年度の業務実績に関する評価について
第 2 号議案 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター
平成 27 年度財務諸表に対する意見について
4. その他

5. 主な意見・質疑 (概要)

議事 1 平成 27 事業年度の業務実績に関する評価について

第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 救急医療

- ・救急車搬送受入患者数の実績 2,538 人は現在の人員体制に対してどのような数値なのか。まだ余力ははあるのか。

→患者の重症度によるが、まだ、多少の余力はあると考える。具体的な人数まで把握していない。(平澤理事長)

- ・救急の受入れ状況はどのようなものか。断らずに受入れしているのか。

→併設型の救命救急センターでは24時間いつでも救急を受けるということは医師等の体制上の限界もあるため難しい。経営とのバランスを考慮し、医療資源を上手に活かして対応したい。(平澤理事長)

- ・救急車搬送受入れの目標値2,000人の根拠について伺いたい。

→山武郡市消防本部の救急車搬送件数が年間約8,000件であり、そのうち4分の1を東千葉MCが対応するという目標値を設定した。(平澤理事長)

- ・救急については、一定の評価はできる。

2 地域の中核病院として担うべき医療

- ・小児医療については内訳を示し、数値目標の設定をしていただきたい。

→小児科の時間外診療もやっており、特に月曜・木曜はかなり受入れしている。(平澤理事長)

- ・小児科については評価しているが、住民としての救急に対する期待は大きいため、難しいとは思いますが、小児救急の24時間対応を期待するところであり、積極的な対応をお願いしたい。

- ・小児科の医療については、医師の疲弊など課題となることが多い。

- ・産科については、小児科との連携を含めPRをお願いしたい。

→お産の予約については、今年度77人まで伸びてきている。(平澤理事長)

- ・周産期医療については、今後、多くの産婦や患者を受け入れられるよう広報をお願いしたい。

- ・産科のホームページの写真は非常に良い。

5 患者・住民サービスの向上

- ・利用しやすい病院づくりの項目では、雨天時の利便性など配慮すべきである。接遇研修は年度末に1回となっており不十分であると思われる。

→接遇研修については、引き続き取り組んでいく。今年度は4月30日に1回目の研修を行った。都合のつかない職員はビデオ映像により対応している。(平澤理事長)

6 地域医療への貢献

- ・地域連携の会に理事長は出席したのか。

→出席した。(平澤理事長)

- ・地域包括ケア病棟の稼動状況は。

→地域包括ケア病棟については、5月からの取組みであるが、9月頃には安定する見込みである。(平澤理事長)

- ・紹介率が数値目標を下回っているため評価2が妥当であると思われる。

- ・地域連携は非常に重要であり、紹介率・逆紹介率は低いように思われる。

→今年度は7月20日に山武郡市医師会の医師と地域連携の会を開催し、医師37人、歯科医師19人が参加した。地域連携室に副センター長を併任し、地域連携強化を行っている。(平澤理事長)

- ・紹介率・逆紹介率は救急を除いた数値というなかでは高い数値であると思われる。

- ・病棟の開棟については、地域のニーズを十分把握したうえで進めていただきたい。

- ・ホームページ等については、発信力が若干弱い。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達するためとるべき措置

1 効率的かつ効果的な業務運営体制の整備

- ・目標達成の進捗管理ができているとは思えないため、評価は2であると思われる。

- ・外部評価については、評価は3でよいと思われるが、住民意見の反映、活用がされているか疑問が

残る。

→住民の意見については、2月に1度（偶数月）委員会を開き、対応協議を行っている。（澤田事務部長）

・医療従事者を対象とした人事評価制度について、どの程度検討が進んでいるのか確認したい。

→医師については、事務職員の制度をそのまま適用できないため、千葉大学の制度などを踏まえ、反映したいと考えている。（澤田事務部長）

・役員の手当はどのように決定しているのか。

→役員の手当では、地方独立行政法人の仕組みとして、理事会に図り、業務手当では±20%の範囲で決定する。これまでは±0%での支給である。（澤田事務部長）

2 人材の確保

・看護師の離職率は

→約14%（澤田事務部長）

・離職率は高いと思われるが、離職の根本的な原因がわからないといくら採用しても効果はあがらないと思われる。奨学金の学生も入ってきているので、長く勤めてもらえるよう取組みをお願いしたい。

・離職率をさげるための取組みを進めていただきたい。

3 人材育成

・資格の取得についても取得者が少ない場合は評価は2であると思われる。

・看護師の確保は重要であるが、同時に在籍する看護師の育成もしっかり行っていただきたい。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 健全な経営基盤の確立

・財務会計システムの整備の予定はたっているのか。早期の導入をお願いしたい。

→システムについては平成26年4月の初期導入から、平成27年4月に機能を追加している。（澤田事務部長）

2 収益の確保と費用の合理化

・経常収益が年度計画と比較して約10億円も下回っており、収支の改善が急務である。今後の道筋を第2期中期計画の変更において示していただきたい。

・専門家のアドバイスも得て、費用の合理化を図っていただきたい。

・ベッドの開床に関連し、病床利用率についても計画に反映し、しっかりと上げていただきたい。

・入院単価が低い印象があるため、病床利用率をしっかりと上げていただきたい。視察で訪れた大阪の病院は入院単価8万円程度であった。地域連携室専用の受付もあった。

・入院単価については、入院日数を減らせば上がるが、病床利用率が下がるため調整が難しい。

→病床利用率については、黒字公立病院の平均稼働率78%を目標値とした。（澤田事務部長）

・外来患者が少ない理由を分析するとともに、看護師不足により病棟が開けないとのことであったが、具体的な対応をお願いしたい。

→平成27年度はマンパワーに問題があった。（澤田事務部長）

・病床の増床を計画しているが満床になるのか。

→病床開床については、次期中期目標期間も含めたなかで段階的に増床する計画としている。（澤田事務部長）

- ・職員にもっと経営状況を周知していただきたい。病床利用率78%とのことだが、適正な病床数を検討すべきである。

→病院の性格上、政策的なものもあり、赤字解消と相反するが、この地域は独居老人も多く、在院日数の減少は難しい。地域包括ケア病棟も適正に運用したい。(平澤理事長)

第4 その他の業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

1 財政負担の原則

- ・そもそも評価対象の項目なのかよくわからない。財政負担を減額することについて評価をすべきと考える。

2 地域に対する広報等

- ・費用対効果を考慮して、適正な広報をお願いしたい。年報についても必要があるのか検討すべきである。評価は2であると思われる。

その他

- ・具体的な項目を再検討し、評価の視点を見直すべきである。事務局で素案をお願いしたい。

1号議案採決

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目評価3）

- ・1 救急医療について評価4、評価5の意見があり、評価4に決定
- ・2 地域の中核病院として担うべき医療について評価3の意見が多数により評価3に決定
- ・3 高度の専門医療について評価2、評価3の意見があり、評価3に決定
- ・4 安全・安心で信頼される医療について評価3に決定

→満足度調査については、意見箱設置調査で終わっており、その後の実績を評価の対象とすべきである。医療安全対策についても、同様に考える。

- ・5 患者・住民サービスの向上について評価2、評価3の意見があり、評価3に決定

→更なるサービスの向上に努めていただきたい。

→業務着手により、今後、成果が求められる項目について、適切に対応していただきたい。

- ・6 地域医療への貢献について評価2、評価3の意見があり、評価3に決定
- ・7 メディカルセンターの段階的な診療科の開設と病棟の開設について評価2に決定

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目評価3）

- ・1 効率的かつ効果的な業務運営体制の整備について評価2、評価3の意見があり、評価3に決定
- ・2 人材の確保について評価2、評価3の意見があり評価3に決定
- ・3 人材の育成について評価3に決定

→資格の取得について単年度で結果がでないものもあると思われるため、着手したものについては、来年度以降結果を出していただきたい。

- ・4 働きやすい職場環境の整備について、評価2、評価3の意見があり評価3に決定
- ・5 職員給与の原則について評価2に決定

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目評価2）

- ・1 健全な経営基盤の確立について、評価2の意見があり評価2に決定
- ・2 収益の確保と費用の合理化について、評価2に決定

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置（大項目評価3）

- ・地域に対する広報について、評価3に決定
- 今後の費用対効果を検討していただきたい。

全体評価

- ・大項目別の評価を踏まえ、評価C「計画をやや下回り、若しくは計画よりもやや遅れていると認められる。」に決定

議事2 平成27年度財務諸表に対する意見について

確認内容

1. 法規性の遵守について

- ・スタート時点で、東日本大震災の影響による建設工事の物価高騰や国の制度変更など、資本金の不足が病院経営に大きな影響を及ぼしており、監事の監査報告書にある資本金の増強については、重要であると考え。経営については、東千葉メディカルセンターの努力が前提となるが、資本金の増強等、国・県への補助要請などを含め、設立団体として対応していただきたい。
- 当時の県試算に総額85.6億円の補助が記載されているが、東日本大震災の影響による資材・人件費の高騰などがあり、当初考えていた震災前の落札比率が概ね8割ということで、その入札差金を内部留保という形で、県のほうにお返ししなくても良いという話になっていたが、それができなくなった。先般の評価委員会においても考えをお示ししたが、今後、県にも相談し、資本金財源の確保ができるようしっかりと対応したい。（志賀市長）

2. 表示内容の適正性について

- ・リース会計処理については重要性が乏しいということで省略されているが、何に基づいて省略しているのか。
- 会計処理については、企業会計のルールに則っており、有形固定資産及び無形固定資産の10%に満たないものについては、省略できることとなっているため、それに基づき省略している。（澤田事務部長）
- 100億円の資産があって、10%ということだと10億円のリースまで記載しなくていいことになるが、年間10億円のリースにしますと例えば5年リースの場合、50億のものを借りても記載しなくていいということになる。
- 会計士協会で決められた基準に従い整理している。適正な整理であると認識している。（澤田事務部長）
- 要望であるが、リースについては、黒字化を目指すための経費の削減のための重要事項であるため内容を明らかにしていただきたい。

その他

- ・監査報告自体は問題ないが、監事1名でこれだけの規模のものを十分に監査できているのか。また

公正かつ公平で客観的なものができているのか疑問が残る。提案として、設立団体からもう1名ずつ監事を選任し3名で監査するべきではないか。

→定款で2名まで配置できている。財産規模から考えて、各法人対応されていると思うが、大学法人の1,000億円の規模でも2名体制であるため、1名でも対応可能であると思うが、法人というより設立団体の判断であると思う。(澤田部長)

→設立団体が一つの団体でやられている場合は2名でも良いと思うが、東金市と九十九里町の2つの団体で設立しているため、その辺を含めてこれから検討していただきたい。

・監事の監査の従事日数はどうなっているのか。

→監事は非常勤として従事しており、年4回の定期監査(2~3日/回)及び必要に応じて従事している。(澤田事務部長)

→監事は非常勤であり、なかなか十分なことができるかどうかは別として、先ほどの監事増員のご指摘は重要だと思う。現在2年連続15億円の赤字、30億円の累積欠損を出しており、大変厳しい状況であるため、抜本的な改革が必要である。少なくとも構成団体が2つあるため、片方ずつ2人にするとか、監事の増員についてはぜひ検討していただきたい。

2号議案採決

合規性の遵守、表示内容の適正性について

・財務諸表に対する特段の意見はないが、今回、評価委員会として、経営状況と財政状況がかなり悪化しているため、具体的な方策の実施による経営の改善について、債務超過の状況も踏まえ、補足の意見をつけたらどうかと考える。

→委員了承

→運営自体は資金不足など問題が多々発生しているため、設立団体としては資金ショートしないためにあらゆる手立てを行い税金を投入している現状がある。そのような状況を運営する方々が今一度認識していただいて、自らの身を削ってでもやるんだという意思を表明していただければ、全面的に協力していきたい。今後も黒字化にむけた努力、経費節減を希望する。

→財務諸表に対する意見はなしということで、現在のかかなり厳しい状況を改善することを要望としてまとめるということによろしいか。

→委員了承